

各 位

会 社 名 太平化学製品株式会社

 代表者名 代表取締役社長 門田 豊
(コード番号・4223)

 問合せ先 経営管理部長 坂田 昌繁
電 話 048 - 222 - 1122

業績予想の修正(連結及び個別)及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成24年5月10日付で公表いたしました平成25年3月期(平成24年4月1日～平成25年3月31日)の連結並びに個別の業績予想の修正及び特別損失の計上について下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 業績予想の修正について

(1) 連結業績予想数値の修正

平成25年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,160	10	15	10	0.81
今回修正予想 (B)	2,710	△ 90	△ 100	△ 130	△10.58
増 減 額(B)－(A)	△ 450	△ 100	△ 115	△ 140	
増 減 率 (%)	△ 14.2	—	—	—	
(ご参考)前期 第2四半期実績 (平成24年3月期 第2四半期)	3,238	18	△ 13	△ 22	△ 1.84

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,620	110	125	110	8.95
今回修正予想 (B)	6,020	70	50	△ 40	△ 3.25
増 減 額(B)－(A)	△ 600	△ 40	△ 75	△ 150	
増 減 率 (%)	△ 9.1	△ 36.4	△ 60.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	6,121	△ 136	△ 150	△ 144	△11.78

(2) 個別業績予想数値の修正

平成25年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,150	15	10	0.81
今回修正予想 (B)	2,700	△ 100	△ 130	△10.58
増減額(B)－(A)	△ 450	△ 115	△ 140	
増減率 (%)	△ 14.3	—	—	
(ご参考)前期 第2四半期実績 (平成24年3月期 第2四半期)	3,233	△ 13	△ 23	△ 1.89

平成25年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,600	125	110	8.95
今回修正予想 (B)	6,000	50	△ 40	△ 3.25
増減額(B)－(A)	△ 600	△ 75	△ 150	
増減率 (%)	△ 9.1	△ 60.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	6,112	△ 151	△ 145	△11.82

(3) 修正の理由

1. 連結業績について

当期業績予想につきましては、当初、増販計画の推進に加え、復興需要、エコカー補助金再開、タイ洪水被害からの回復等、経済環境の好転による需要回復を織り込んでいました。しかし、当社の主力事業が属する市場は本格的な回復にまだ時間がかかることが見込まれ、一部製品の販売は増加基調に転じたものの、主要製品の増販達成は上期後半及び下期にずれ込む状況になっています。また、利益につきましても、前述売上高の減少に株式市場低迷に伴う株式評価損の計上等もあり、当初予想を大幅に下回る見込です。

これに対し当社は、前述増販計画の加速に加え、歩留向上、並びに人件費等固定費削減を柱とする収益改善計画を鋭意進めておりますが、当初の業績予想を達成することが困難な見込となっており、一方、今後の経済環境につきましても、全体としては緩やかな成長が見込まれてはおりますが、先の見えない欧州債務危機、世界経済の減速懸念、円高再燃等、景気の下振れ要因も多々存することから、当初立てました業績予想を修正するものです。

2. 個別業績について

個別業績の修正理由は、連結業績予想と同様であります。

II. 特別損失の計上及びその内容について

(1) 投資有価証券評価損

1. 投資有価証券評価損(109百万円)

当社は、「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復が困難であると認められたものについて、平成25年3月期第1四半期において減損処理による投資有価証券評価損を特別損失として計上する必要が生じました。

なお、四半期会計期間末における投資有価証券の減損処理につきましては、四半期洗替え方式を採用しているため、平成25年3月期第2四半期、第3四半期及び平成25年3月期の期末日の時価あるいは実質価額により、特別損失の額が変動する場合は特別損失を計上しない場合があります。

2. 平成 25 年 3 月期 第1四半期の有価証券評価損の総額

	連結
(A) 平成 25 年 3 月期第1四半期の投資有価証券評価損の総額	109 百万円
(B) 平成 24 年 3 月期末の純資産額 (A/B×100)	3,312 百万円 (3.3%)
(C) 平成 24 年 3 月期末の経常損失額 (A/C×100)	150 百万円 (-%)
(D) 平成 24 年 3 月期末の当期純損失額 (A/D×100)	144 百万円 (-%)

(注) 1. 四半期における投資有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

2. 当社の決算期末は 3 月 31 日であります。

以上